

平成22年11月期 第1四半期決算短信

平成22年3月30日

上場会社名 キューピー株式会社

上場取引所 東

コード番号 2809 URL <http://www.kewpie.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 豊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営推進本部長 (氏名) 井上 伸雄

四半期報告書提出予定日 平成22年4月14日

TEL 03-3486-3331

配当支払開始予定日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年11月期第1四半期の連結業績(平成21年12月1日～平成22年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年11月期第1四半期	110,720	1.6	4,393	67.6	4,475	65.5	2,370	67.0
21年11月期第1四半期	108,954		2,621		2,704		1,419	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年11月期第1四半期	15.63	
21年11月期第1四半期	9.36	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年11月期第1四半期	279,585	173,364	53.6	987.03
21年11月期	275,650	170,804	53.8	978.33

(参考) 自己資本 22年11月期第1四半期 149,729百万円 21年11月期 148,412百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年11月期		7.50		9.50	17.00
22年11月期					
22年11月期(予想)		8.00		8.00	16.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

(参考) 平成21年11月期の1株当たり期末配当金につきましては、創立90周年記念配当2円を含んでおります。

3. 平成22年11月期の連結業績予想(平成21年12月1日～平成22年11月30日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	238,000	5.3	9,000	19.0	9,000	15.2	4,700	16.0	30.98
通期	483,000	6.8	19,300	8.8	19,300	4.8	9,700	7.3	63.94

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

会計基準等の改正に伴う変更 無

以外の変更 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む） 22年11月期第1四半期 155,464,515株 21年11月期 155,464,515株

期末自己株式数 22年11月期第1四半期 3,766,745株 21年11月期 3,765,068株

期中平均株式数（四半期連結累計期間） 22年11月期第1四半期 151,698,073株 21年11月期第1四半期 151,735,506株

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想等の将来に関する記述は、業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定および本日現在における入手可能な情報を前提としており、実際の業績等は様々な要因で大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想に関しましては、4ページ「定性的情報・財務諸表等 3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、景気は持ち直しの兆しを見せましたが、雇用情勢の悪化などから個人消費が引き続き低迷する厳しい状況で推移いたしました。

食品業界においては、内食の需要は堅調だったものの、景気低迷の影響を受けて外食や中食での消費が不振であったほか、お客様の購入単価の下落傾向が続きました。

食品物流業界においては、燃料価格の上昇基調での値動きや消費低迷による輸送需要の減少に加え、同業者間での競争が継続しました。

◇ 当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用関連会社）の状況

当期からの3年間を対象とする中期経営計画における、「人材育成の充実と、グループ品質の向上」を土台とした「事業基盤の強化」と「新たな展開への挑戦」の3つの基本方針、またこれらを強力に推進するドリルの役割として位置づけた「フードサービス戦略の本格的展開」にグループが連携して取り組むことで、企業価値の一層の向上に努めました。

・売上高

食品事業においては景気低迷の影響から外食や中食向けが伸び悩んだものの、物流事業での連結子会社の増加などから1,107億20百万円と前年同期比17億66百万円（1.6%）の増収

・利益面

昨年5月に実施したマヨネーズの価格改定の影響を受けたものの、サラダ調味料やヒアルロン酸などの基幹商品の強化を図ったほか、継続してコスト低減に努めたことや主要原料を安定して購入できたことなどから、営業利益は43億93百万円と前年同期比17億72百万円（67.6%）、経常利益が44億75百万円と前年同期比17億71百万円（65.5%）、四半期純利益は23億70百万円と前年同期比9億51百万円（67.0%）の増益

◇ セグメント別の状況

<食品事業>

(単位 百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	増減(金額)	増減(比率)
売上高	86,086	83,502	△2,584	△3.0%
営業利益	3,309	4,947	1,638	49.5%

調味料・加工食品

- ・家庭用のサラダ調味料が堅調
- ・“新ソース”と位置づけている、新商品の「具のソース」シリーズや既存品の「バジルソース」などで、メニューや売り方の提案を積極的に推進
- ・ユニバーサルデザインのヒネルキャップを採用した「味わいすっきりドレッシング」シリーズを新発売

健康機能

- ・ヒアルロン酸が食品（サプリメント）用途や化粧品用途で好調
- ・在宅介護市場の開拓などにより、介護食が順調

タマゴ

- ・機能性液卵「エクセルエッグ」などが取組みの強化で拡大
- ・新技術で泡状の状態と食感を楽しめる「エスプーマベース」などの新領域商品や、「シェフズスクランブル」（ミルクとバターの風味を活かしたスクランブルエッグ）などでメニュー提案を推進

サラダ・惣菜

- ・カット野菜の店頭での販売促進プロモーションを強化
- ・コンビニエンス市場の停滞や販売価格の低下が売上高に影響
- ・業態転換への取組みにより生産性向上を推進

＜物流事業＞

（単位 百万円）

	前第1四半期	当第1四半期	増減（金額）	増減（比率）
売上高	22,867	27,217	4,350	19.0%
営業利益	320	553	233	72.8%

- ・保管機能の再構築による空スペース対策に注力
- ・地域密着型営業の推進による新規取引の開拓に傾注
- ・連結子会社の増加が売上げ増に寄与

2. 連結財政状態に関する定性的情報

◇ 総資産、負債、純資産の状況

- ・総資産は、2,795億85百万円と前連結会計年度末比39億35百万円増加
主に「現金及び預金」の減少、「受取手形及び売掛金」、「商品及び製品」、「原材料及び貯蔵品」の増加、「投資有価証券」の減少による
- ・負債は、1,062億20百万円と前連結会計年度末比13億74百万円増加
主に「支払手形及び買掛金」、「短期借入金」の増加、「未払法人税等」の減少、「引当金」の増加、「その他」（未払費用）、「長期借入金」の減少による
- ・純資産は、1,733億64百万円と前連結会計年度末比25億60百万円増加
主に「利益剰余金」、「少数株主持分」の増加による

◇ キャッシュ・フローの状況

- ・現金及び現金同等物の残高は、273億23百万円と前連結会計年度末に比べて5億8百万円減少
各キャッシュ・フローの状況
 - 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益、減価償却費に加え、売上債権および仕入債務の増加、法人税等の支払などにより13億92百万円の収入
 - 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資のための支出などにより21億10百万円の支出
 - 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加、配当金の支払などにより68百万円の支出

3. 連結業績予想に関する定性的情報

中期経営計画の初年度にあたり、「事業基盤の強化」においては、サラダ調味料の拡大、タマゴ商品の競争力向上、ヒアルロン酸の強化を推し進めるとともに、生産配置の適正化やサラダ・惣菜事業の関東エリアの強化に取り組みます。また「新たな展開への挑戦」では、国内においては、新たなソースの打ち出しなどにより市場の深耕を図るほか、海外では、中国へのさらなる浸透、タイのフードサービス市場の開拓やマレーシアへの進出を図るなど東アジアでの拡大を推進してまいります。

本年1月12日に公表しました平成22年11月期の業績予想に変更はございません。

4. その他

- （1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。
- （2）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
 - ①簡便な会計処理
重要な該当事項はありません。
 - ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理
該当事項はありません。
- （3）四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年2月28日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,400	23,148
受取手形及び売掛金	64,640	61,342
有価証券	5,000	5,000
商品及び製品	10,333	9,529
仕掛品	783	762
原材料及び貯蔵品	4,712	4,097
その他	5,445	4,851
貸倒引当金	△363	△356
流動資産合計	112,952	108,374
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	124,869	123,890
減価償却累計額	△76,356	△75,054
建物及び構築物（純額）	48,513	48,835
機械装置及び運搬具	126,951	125,623
減価償却累計額	△104,609	△102,742
機械装置及び運搬具（純額）	22,342	22,880
土地	40,468	40,463
建設仮勘定	2,117	1,535
その他	10,027	9,527
減価償却累計額	△7,473	△7,218
その他（純額）	2,554	2,309
有形固定資産合計	115,996	116,024
無形固定資産	2,179	2,261
投資その他の資産		
投資有価証券	18,904	19,795
前払年金費用	18,295	18,446
その他	11,988	11,474
貸倒引当金	△731	△726
投資その他の資産合計	48,456	48,989
固定資産合計	166,632	167,276
資産合計	279,585	275,650

（単位：百万円）

	当第1四半期連結会計期間末 （平成22年2月28日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成21年11月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	42,401	37,023
短期借入金	22,927	11,537
未払法人税等	2,561	5,929
引当金	5,032	1,804
その他	17,387	22,483
流動負債合計	90,311	78,778
固定負債		
社債	500	500
長期借入金	2,541	12,744
引当金	2,614	2,623
その他	10,252	10,200
固定負債合計	15,909	26,068
負債合計	106,220	104,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,104	24,104
資本剰余金	29,432	29,432
利益剰余金	102,571	101,396
自己株式	△3,845	△3,843
株主資本合計	152,263	151,089
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,198	1,213
繰延ヘッジ損益	△40	△58
為替換算調整勘定	△3,691	△3,831
評価・換算差額等合計	△2,533	△2,676
少数株主持分	23,634	22,391
純資産合計	173,364	170,804
負債純資産合計	279,585	275,650

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年12月1日 至平成21年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年2月28日)
売上高	108,954	110,720
売上原価	84,531	84,198
売上総利益	24,422	26,522
販売費及び一般管理費	21,801	22,128
営業利益	2,621	4,393
営業外収益		
受取利息	84	50
受取配当金	74	77
持分法による投資利益	17	82
その他	113	80
営業外収益合計	289	290
営業外費用		
支払利息	148	89
為替差損	—	57
その他	58	61
営業外費用合計	206	208
経常利益	2,704	4,475
特別利益		
前期損益修正益	3	3
固定資産売却益	3	6
貸倒引当金戻入額	1	—
補助金収入	5	40
その他	—	2
特別利益合計	13	52
特別損失		
前期損益修正損	74	2
固定資産除却損	59	58
投資有価証券評価損	68	—
その他	34	7
特別損失合計	236	68
税金等調整前四半期純利益	2,481	4,459
法人税等	881	1,821
少数株主利益	180	267
四半期純利益	1,419	2,370

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年12月1日 至平成21年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,481	4,459
減価償却費	2,993	3,041
持分法による投資損益（△は益）	△17	△82
投資有価証券評価損益（△は益）	68	4
引当金の増減額（△は減少）	2,890	2,942
前払年金費用の増減額（△は増加）	△469	193
受取利息及び受取配当金	△158	△127
支払利息	148	89
固定資産除売却損益（△は益）	56	53
売上債権の増減額（△は増加）	9,572	△1,073
たな卸資産の増減額（△は増加）	△1,637	△1,244
仕入債務の増減額（△は減少）	△5,209	4,862
その他	△5,867	△5,689
小計	4,852	7,431
利息及び配当金の受取額	132	153
利息の支払額	△151	△122
法人税等の支払額	△1,682	△6,069
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,151	1,392
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,714	△2,264
無形固定資産の取得による支出	△99	△86
投資有価証券の取得による支出	△1,026	△5
貸付けによる支出	△103	△270
貸付金の回収による収入	56	55
その他	△308	460
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,196	△2,110
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	970	1,783
長期借入金の返済による支出	△474	△251
少数株主からの払込みによる収入	—	90
配当金の支払額	△1,214	△1,441
少数株主への配当金の支払額	△176	△182
自己株式の取得による支出	△3	△1
その他	△4	△66
財務活動によるキャッシュ・フロー	△903	△68
現金及び現金同等物に係る換算差額	△134	73
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,083	△712
現金及び現金同等物の期首残高	26,705	27,831
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	100	205
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,722	27,323

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年12月1日 至 平成21年2月28日）

	食品事業 (百万円)	物流事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	86,086	22,867	108,954	—	108,954
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	3	5,332	5,335	(5,335)	—
計	86,089	28,199	114,289	(5,335)	108,954
営業利益	3,309	320	3,629	(1,008)	2,621

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、業種別に区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

食品事業・・・調味料・加工食品、健康機能、タマゴ、サラダ・惣菜 等
物流事業・・・運送・倉庫業

3. 追加情報

当社および国内連結子会社の機械装置等の耐用年数については、当第1四半期連結会計期間より、法人税法の改正を契機として見直しを行い、改正後の法人税法に基づく耐用年数に変更しております。これにより、営業利益は「食品事業」で133百万円増加し、「物流事業」で3百万円減少しております。

当第1四半期連結累計期間（自 平成21年12月1日 至 平成22年2月28日）

	食品事業 (百万円)	物流事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	83,502	27,217	110,720	—	110,720
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	3	5,180	5,183	(5,183)	—
計	83,506	32,398	115,904	(5,183)	110,720
営業利益	4,947	553	5,501	(1,108)	4,393

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、業種別に区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

食品事業・・・調味料・加工食品、健康機能、タマゴ、サラダ・惣菜 等
物流事業・・・運送・倉庫業

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間および当第1四半期連結累計期間の本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報は開示しておりません。

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間および当第1四半期連結累計期間の海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高は開示しておりません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

大阪サンエー物流(株)、エム物流(株)、(株)サンファミリー、ワイシステム(株)の4社が当第1四半期連結会計期間より連結子会社となったことにより、連結子会社の増加に伴う利益剰余金の増加として、利益剰余金が246百万円増加しております。